



令和元年5月1日は私の記念日

開庁からカップル続々、婚姻届を提出 明るい家庭、穏やかな家庭、夢はそれぞれ

ゴールデンウィークの5月1日、新元号「令和」がスタートしました。この日を結婚の記念日にしようと、婚姻届を提出する新郎新婦のカップル33組が続々と市役所に訪れました。

10連休の真ん中、改元初日を記念して結婚するカップルが多いと予想した市は休日開庁するとともに、市役所ロビーに「令和元年」と書かれた記念パネルを設けてお出迎え。訪れたカップルや市民が「令和」と書かれた額や提出する婚姻届を手元に記念写真を撮っていました。

婚姻届を提出したご夫婦のうち、山本 康平さんと麻子さんは「新郎は平成、新婦は昭和の生まれなので今日を夫婦のスタートに決めました。改元の節目は覚えやすいし、実はぼくの両親も平成元年に結婚しているので、いい記念になります。二人でささやかな幸せを作りたいと思います」と話していました。



平成から令和へ、まちの歴史を紡ぐ

*緑の葉と水の雫をモチーフにした守山ブランドのロゴマークです。
小さな活動が種となって、大きく育つ「守山」をイメージしてタイトルをつくりました。



昭和30年代ごろのかねもり食堂



3代目の奥村友治さん(右)と恵子さん

平成とともに幕おろした老舗

昭和13年 旧守山駅に開店の老舗食堂 3代で刻んできた創業80年の歴史に幕

奥村 友治さんと恵子さんご夫妻(梅田町)は、平成最後の4月30日に創業80年の老舗食堂を閉店しました。

昭和13年に「かねもり食堂」として旧守山駅前(現在より50m野洲市寄り)で開店。守山市の玄関口を見守ってきました。

友治さんは平成に変わる直前に恵子さんと結婚して3代目を受け継ぎ、改装した「懐石・割烹 心味おくむら」を切り盛りしてきました。しかし、長年二人三脚で頑張ってきた恵子さんがインフルエンザに罹った時に1週間の休業を余儀なくされ「どちらかが働けなくなればお客さまに迷惑が掛かる」と、平成とともに店舗を閉める決断をしたそうです。

友治さんは「まずはディズニーランドで妻孝行。それから大学時代に学んだ貿易関係で趣味と実益を兼ねた仕事ができればと構想しています」と話していました。